

語認識自己診断能力と英語熟達度との関係 — 単語リストを使った英検合格予測の一試案 —

Relationships between proficiency and self-assessments of word recognition: the easiest way of prediction for success in the English STEP test

リーディングにおける fluency 研究では、語認識能力が読解能力を予測し、テキストに含まれる 95%以上の単語を正確に読めなければ、そのテキストは独習に適さないという主張がある。こうした研究成果にもとづき、本研究は語認識能力で英検の合格が予測できるのかどうかを、大学生を対象としたデータにより検証する。英検長文問題から無作為に単語を抽出して 4 種類の単語リストを作成し、学生に発音がわからない単語の語数を申告させた。申告語数の平均値は 4 種類のリスト相互に有意な差が認められず ($F(3) = 1.12, p < .00$)、信頼性係数も極めて高かった ($\alpha = .86$)。無作為に抽出すれば、どのような単語リストでも同じような結果が出ること、英検抜粋問題のスコアとの関係では、対象者のうち、合格者圏内の申告語数の平均値は、先行研究通り単語リストのおよそ 5%となり、単語リストの申告語数が、英検の合格可能性を予測する一指標になりうることがわかった。